

令和7年度 学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】	
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園	
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園	
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園	

(1) 自主的な高校生活～自主自立～	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2) 活力に満ちた高校生活～文武両道～	①日々の授業や探究学習に前傾姿勢で取り組むとともに、主体的・計画的な家庭学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に主体的・協働的に参加し、健全な心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を積極的に生かし、将来に向かって具体的な行動を起こす。
(3) 心の触れ合う高校生活～友愛協和～	①気持ちの良い挨拶の交わり合いを心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③様々な機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合い、成長の糧とする。

グラデュエーションポリシー

地域・社会のリーダーとして貢献できる人材
～国創りを牽引するイノベーション人材～
○明確な目標を持ち、その実現に向けて努力する人
○常に探究心を持ち続け、視野の拡大と変革を志す人
○多様性を受容し、協働して新たな価値を創造できる人

評価の指標（肯定的評価値の割合） A：80%以上（満足できる） B：60～79%（もう少し） C：50～59%（改善が望ましい） D：49%以下（改善が必要）

領域	目標 (評価項目)	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価					取組状況と課題	改善策	学校関係者評価	
					目標値 [a]%	評価値 [b]%	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価			総合 評価	コメント
					下段は昨年のも								
環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職	80	94	118%	3.3	A	教育活動の基盤となる授業について、各分掌と連携し、生徒による授業評価や授業力向上について見直しを図った。スーパーサイエンスハイスクール事業や諸行事についての意義を再確認し、生徒にとって有益な教育活動について検証を行った。本校教員の働き方改革については、今後も継続して考えていきたい。	「出雲高校に入学して良かった」という生徒、保護者の評価をさらに高めるためには、何よりも教員の一体感、共通理解の醸成が求められる。人権感覚の向上、支持的風土のある明るい職場づくりが生徒に「隠れたカリキュラム」として影響を与えることを意識しながら、日々の教育活動や校内研修の充実を図りたい。	A	○生徒、保護者から「出雲高校に入学してよかった」という素晴らしい評価を得ている。地域の方がこのような結果を知る機会を是非つくってほしい。	
		(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務	80	98	123%	3.3	A	PTA関係については数値が向上した。おおむね円滑に諸活動を運営できている。昨年度末、理事・評議員・委員会について活動規模を縮減したが、ある程度、時勢に合わせた対応であったと感じている。	今後もPTA役員との連携を密にして、より円滑に運営していきたい。	A		
		(3)様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を勧める。		80	100	125%	3.4	A	生徒・保護者の数値が前年度比で向上し、教職員の数値も高評価であるが、業務を担当者に依存していた面がある。	奨学金に関して分掌内でも十分に業務を共有する方向を模索したい。	A		
		(4)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。	図書文化情報	80	96	120%	3.3	A	欠席連絡システムのリンク貼付け等、新たな取り組みも行った。改善すべき事柄があればその都度更新を行っていった。しかし、タイムリーに改善すべき事柄に気づけていないこともある。	年度初めに更新されていない古い情報がないかチェックをしたが、各学期に最低1回はチェックするなどして、常に最新の情報があるようにしたい。	A		
		(5)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。		80	100	125%	3.5	A	図書に加えて渡辺奨学金等によって、今年度も多くの本を新たに購入している。	引き続き生徒・教員にとって必要な蔵書、資料の確保に努めていきたい。	A		
		(6)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。		80	98	123%	3.3	A	情報発信や機器の貸し出しなど、システムを活用する環境の整備に努めている。機器のトラブルや相談に対応したくても、状況によっては即座に対応できないこともある。	生成AIに質問することによって一定数のトラブルは解消することがある。生成AIの活用方法をさらに広めていくことで、いくらかは改善に向かうかもしれない。	A		
		(7)清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。	保健	80	92	115%	3.2	A	清掃活動については、美化委員会による清掃強化週間の実施や、トイレ掃除マニュアルやチェックリストの活用などに取り組んだ結果、概ね高い評価を得ている。主体的に掃除に取り組む生徒を育てていくことが課題である。	清掃用具の整備や美化委員会活動などを通して、掃除に取り組む環境を整えていきたい。また、教職員も一緒に時間いっぱい掃除に取り組むことで、清掃活動に対する意識を高めていきたい。	A		
		(8)費用対効果と優先順位を考慮して、限られた予算で効率的な予算執行を行う。	事務	80	98	123%	3.4	A	コロナ後からは予算充足率が追いつかない状況であるが、各分掌・教科との調整を図って節減に努め、より高い効果が得られるよう効果的な予算執行に心がけた。	費用対効果や優先順位に引き続き留意し、安全な教育環境の整備に特に配慮を行い、限られた予算の有効な執行に引き続き努めていきたい。	A		
一隅を照らす国の宝を育成する	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(9)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	80	100	125%	3.5	A	学園祭でのキャンプファイヤーの継続実施を厳密に取り組むことができた。12月のイルミネーションについても準備を含めて上手く取り組むことができた。	積極的に活動を行っているので、スクラップ&ビルドの観点で企画を考えていきたい。	A	○部活動に対しての教員の関わり方について、働き方改革を意識した取組を進めてほしい。	
		(10)人権教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習をおこなって、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒	80	98	123%	3.5	A	担任・副担任の協力のもと人権学習はスムーズに実施された。	生徒の課題や背景を理解し、教職員間の情報共有を大切にしながら、人権教育を深化させたい。	A		
		(11)いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を育てる。		80	100	125%	3.5	A	5件のいじめ認知を行った。「いじめ」について回答した生徒には適切に対処できた。	年間3回のいじめアンケートを行い、小さな部分から発見できるようにしたい。	A		
		(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を行う。	教職員自己評価における肯定的評価の割合	80	78	98%	2.9	B	携帯電話の不正使用報告が19件あった。潜在的にはもっとあると思われる。遅刻は特定の生徒が繰り返している状況であった。	適宜、携帯電話の不正使用について生徒会と協力して訴えかけていきたい。	B		
		(13)部顧問会や大会、遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。		80	87	109%	3.2	A	部活動中は巡回してもらうようお願いした。突発的な事故への対応もスムーズであった。	管理責任は教員にあるので、部活動中の巡回は継続して行う。	A		
		(14)街頭指導や自転車点検等の実施を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。		80	96	120%	3.4	A	交通事故が10件起きた。事故が起こった時のマニュアルを配布し啓発を図った。	令和8年度から「交通反則通告制度（青切符）」が始まるので、継続して交通安全について訴えていきたい。	A		
		(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務	80	91	114%	3.2	A	プロジェクトチームと協働し、授業改善を進めるべく、全教員の授業公開を求めた。授業アンケートも生徒主体のものにし、建設的な意見が増えたようである。	次年度も、各教科会の協力のもと、学校全体で授業力向上の機運を高めていきたい。	A		
		(16)GRITizmノートや学習時間入力、休日の自習開放を活用し、自ら学びに向かう意識を高める。	キャリア教育・学年部	80	73	91%	2.9	B	GRITizmノートに関しては、学年が上がるにつれて生徒評価が上がっていき、徐々に自己管理の大切さと、その活用価値について認識が深まってきたと思われる。	キャリアパスポートの部分をGRITizmノートと一体化させてから三年経つが、それが邪魔という意見も聞かれる。分離して使いやすくするなど、使い勝手を向上させるという視点も必要である。	B		
(17)3年生の放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路希望の達成に向けた学力向上に役立てる。		80	91	114%	3.0	A	今年度は土曜補講を廃止し、1学期の放課後補講も完全希望制へと変更した。希望制にしたことで主体的に生徒が参加するようになり学習効果が高まったと考えられる。	授業を最重要の基盤として実施しながらも、補習も効果的に展開したい。1学期放課後補講→マール（夏期錬成講習）→2学期放課後補講という大きな流れの中で学力の向上を図りたい。	A				
(18)大学入共通テストや各大学の個別試験に関する情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。		80	98	123%	3.3	A	教員向けセミナーや講座の案内、進路情報の提供は、その都度全教員にメール連絡したり、共有のフォルダに情報を入れて周知したりする方法で提示している。	現在は案内や情報収集ができたらその都度五月雨式に提示している。来年度はその都度提示することと併せて、一覧などにしておくことで教員が確認しやすいようにすることも検討している。	A				
適応性に必要な能力	○進路意識の高揚 ○進路実現の支援	(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育	80	93	116%	3.3	A	情報提供はオンデマンド方式での教室実施がほとんどだった。生徒にとっては記録も取りやすく、スクリーンでスライド資料も見やすいので、このやり方で良かったと思う。新たな取り組みとして「系統別」での進路検討会を実施した。これが担任や参加者から非常に高評価だった。過去の担任コメントだけでなく検討会の意見も個票に記載するようにしたことで経緯を踏まえた検討ができるようになった。	動画データをClassroomに入れて、家庭で保護者も視聴できるようにしていくとよい。進路検討会については、基本的に今年と同様の形とした。第1回はクラス別の検討とし、教科担当者や担当クラスの生徒の志望先を把握できるようにする。第2回以降は系統別にして、担任間で情報が「把握・共有しやすいようにしていきたい。	A	○卒業生会である久徴会が関わっている取組については、生徒のためになれば良いと思いながら活動している。 OSSH発表会について、生徒が積極的で素晴らしいかった。生徒の将来につながる活動を今後も継続してほしい。	
		(20)進路希望調査、プロフェッショナルセミナー、久徴ゼレンディビティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。		80	98	123%	3.3	A	8月下旬に大学学部合同説明会をライブ配信に依頼して実施し、複数の大学の説明が提供できてとても良かった。久徴ゼレンディビティは貴重な機会だが、放課後実施ということもあり参加者数が少ないのが課題である。	大学学部合同説明会は次年度もライブ配信に依頼する。生徒への周知を徹底し、参加者を増やしたい。久徴ゼレンディビティは「ワーク」セミナーに組み入れることなどを検討する段階にきている。	A		
		(21)小論文指導や面接指導を組織的にを行い、進路実現を支援する。		80	98	123%	3.4	A	今年度から指導開始時期を早め、夏休み前から担当教員を割り当てたことで、早くから教員が関わることができた。	総合型や学校推薦型はさらに増えていくことが予想される。指導開始時期を早めたとしても、現在の「学校の教員による指導だけ」では限界があるため、外部のシステムをうまく活用することが鍵となる。	A		
		(22)科学系人材・グローバル人材育成のために、スーパーサイエンスハイスクール事業(各種研修や課題研究など)の取り組みを充実させる。	教育開発	80	94	118%	3.3	A	継続して行っている取組は前年踏襲ではなく、少しずつ修正を加えながら実施できた。 ・前年度の取組を振り返り、取組の質は担保しながら業務の精選に努めた。 ・初めて担当すると見通しが見えづらかった。また、各取組の運営の負担が大きい。 ・理数系の取組に偏りすぎないようにしつつも理数系人材の育成を図る取組を充実させるための工夫が必要である。 ・グローバル人材の育成に関してもグローバルリーダーシッププログラムの参加者を中心とした校内における国際性の意識を醸成につなげられていない。	複数の担当で業務にあたるような役割分担の工夫を検討する。普通科理系の生徒や希望する生徒にむけての理数系の関心を高めたり、人材育成につながるような取組の実施を検討する。	A		
安全対応能力の向上	○危機管理体制の確立 ○危機回避・対応能力の向上	(23)危機管理マニュアルにより災害・事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	96	120%	3.3	A	悪天候による列車遅延等については、数日前より想定される事態を管理職間で協議し、「さくら連絡網」等を活用して、適切に周知した。「危機管理マニュアル」を最新の状況に改訂し、各職員室での管理、対応の徹底を促した。1月6日に起きた地震については、教職員と協力しながら、登校している生徒について迅速に対応することができたが、改めて万全な対応マニュアルの必要性を感じた。	総務部の学校安全担当者として連携し、今回の地震を教訓に、対応マニュアルの整備を進めていきたい。緊急放送に関しても、自然災害の種類ごとにシナリオを作成する必要がある。不登校生徒について初期対応の遅れが感じられる。生徒の異変を見逃さず、担任と学年会が連携して速やかに家庭訪問を行うなど、生徒一人一人に丁寧に向き合う姿勢を促していきたい。	A		
		(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。	総務	80	96	120%	3.3	A	第2回防災避難訓練のあり方を変更した。アンケート数値は高評価を得たが、訓練の振り返りアンケートでの意見を参考に次年度のあり方を検討したい。また緊急メールを使用した安否確認訓練を1学期に実施していなかったのは大きな反省である。	よりよい防災避難訓練のあり方について、今後も検討していく。安否確認訓練については年間2回の防災避難訓練と同時期に実施できるよう、校内行事予定表にも記載する。	A		
				80	95	119%	3.4	A					